

第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画の 進捗報告（令和6年度実績）について

環境局循環社会推進課

1

I 計画目標の項目について

2

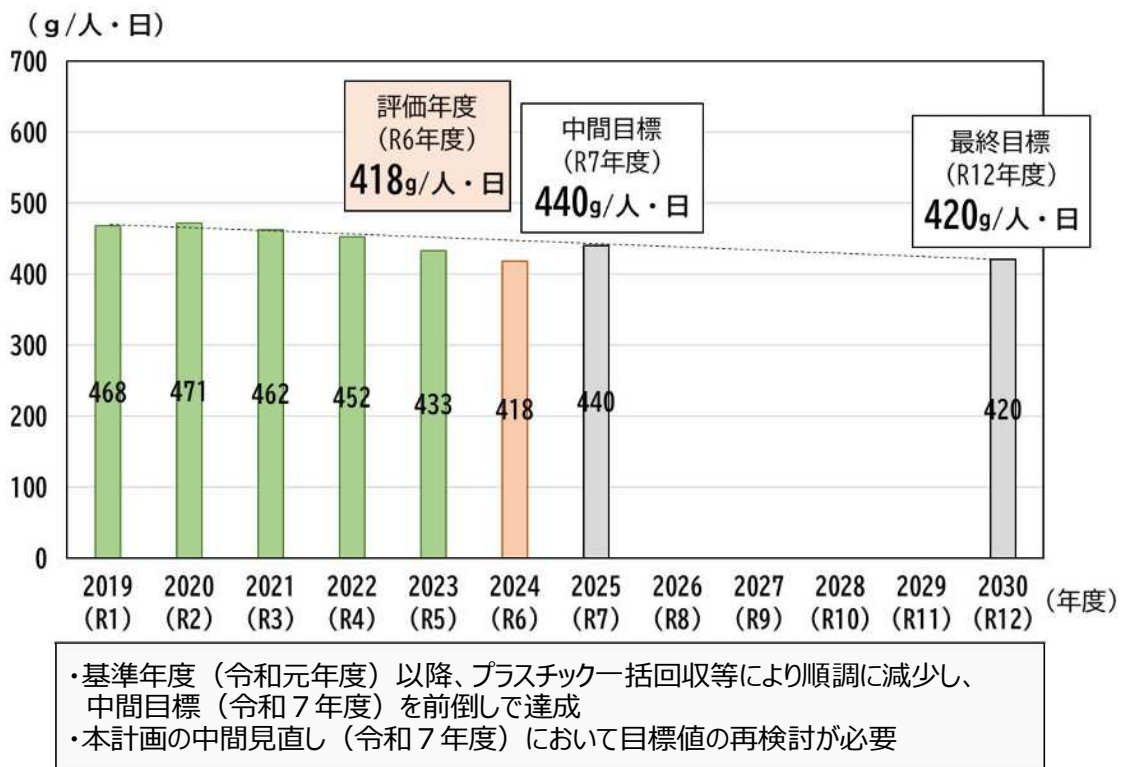
「第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画」について

計画目標の項目	2019（令和元） 年度 （基準年度）	2023（令和6） 年度	2025（令和7） 年度 （中間目標年度）	2030（令和12） 年度 （最終目標年度）
市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g	418g	440g以下	420g以下
事業系ごみ量 （市の施設で処理した量）	180,582トン	153,267トン	167,192トン 以下	157,682トン 以下
リサイクル率（一般廃棄物）	28.0%	26.2%	30%以上	32%以上
うち、家庭系リサイクル率	33.1%	27.9%	34%以上	36%以上
一般廃棄物処理に伴い発生する CO ₂ 排出量※	88千トン	95千トン （速報値）	60千トン以下	60千トン以下
産業廃棄物の最終処分量	203千トン （H30実績）	283千トン （R4実績）	185千トン以下	170千トン以下

※ CO₂排出量は、一般廃棄物の処理で発生したCO₂量から、焼却工場で発電することで削減したCO₂量を差し引いて算出

3

計画目標の項目：市民1人一日あたりの家庭ごみ量



4

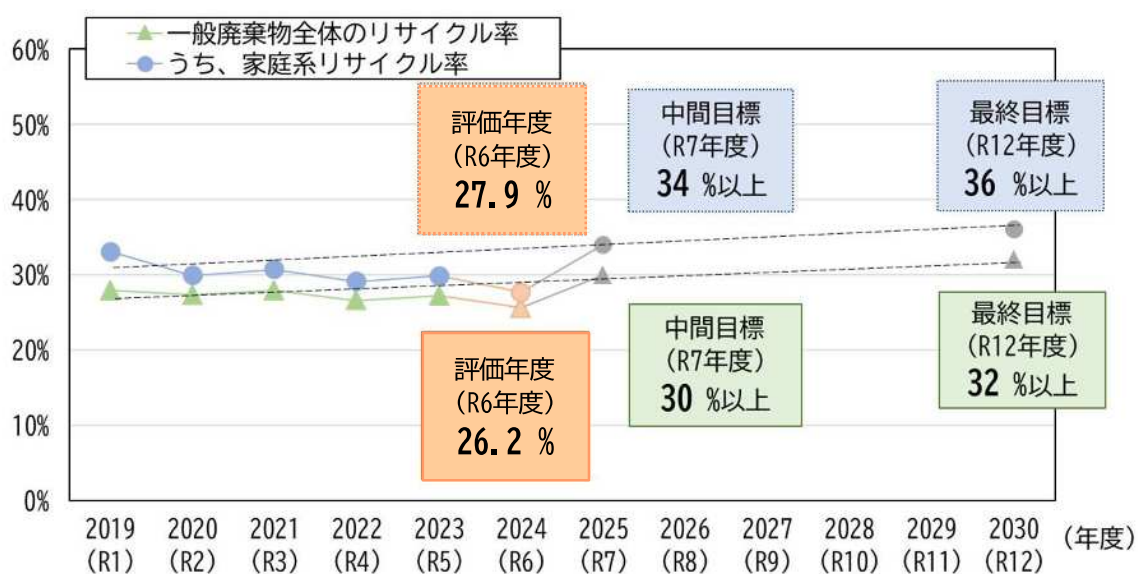
計画目標の項目：事業系ごみ量（市の施設で処理した量）



- ・焼却工場での検査強化や事業所訪問による指導等により、減少傾向。
- ・目標値を前倒しで達成した一方、他の政令市と比べると本市の事業系ごみ量は多く、更なる減量リサイクル対策が必要。
- ・北九州市環境基本計画（令和6年10月）において、新たな令和12年度目標値（令和4年度比20%減）を設定。

5

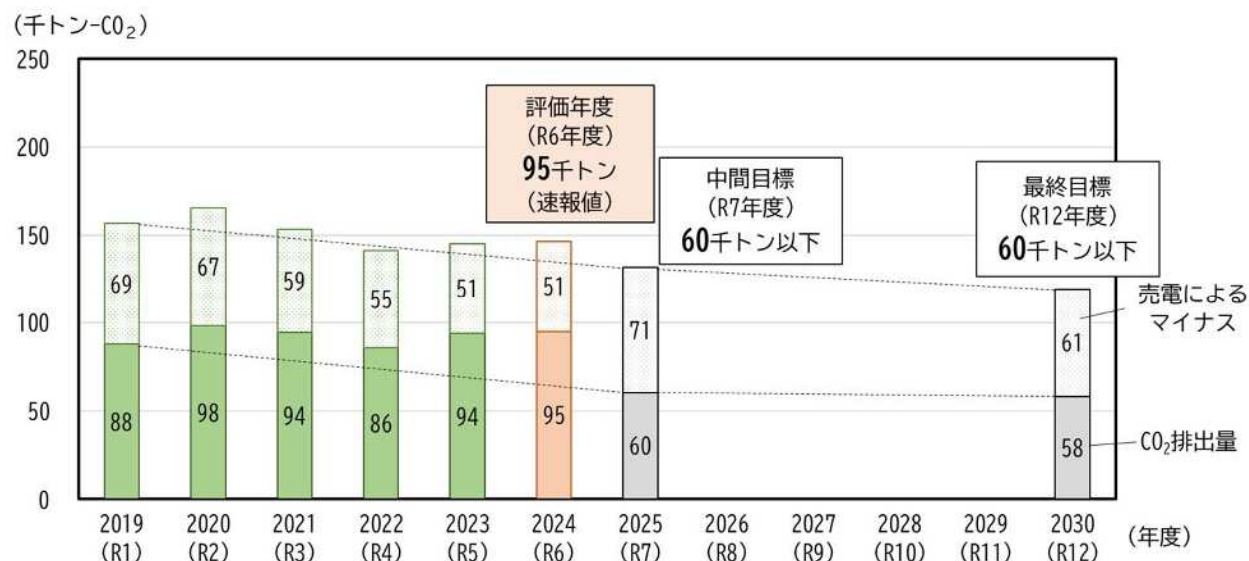
計画目標の項目：リサイクル率（一般廃棄物）



- ・紙の流通量の減少や容器の軽量化等の影響により、全体的に資源化物の回収量が減少していることが要因と推測。
- ・目標のあり方を含めた再検討が必要。

6

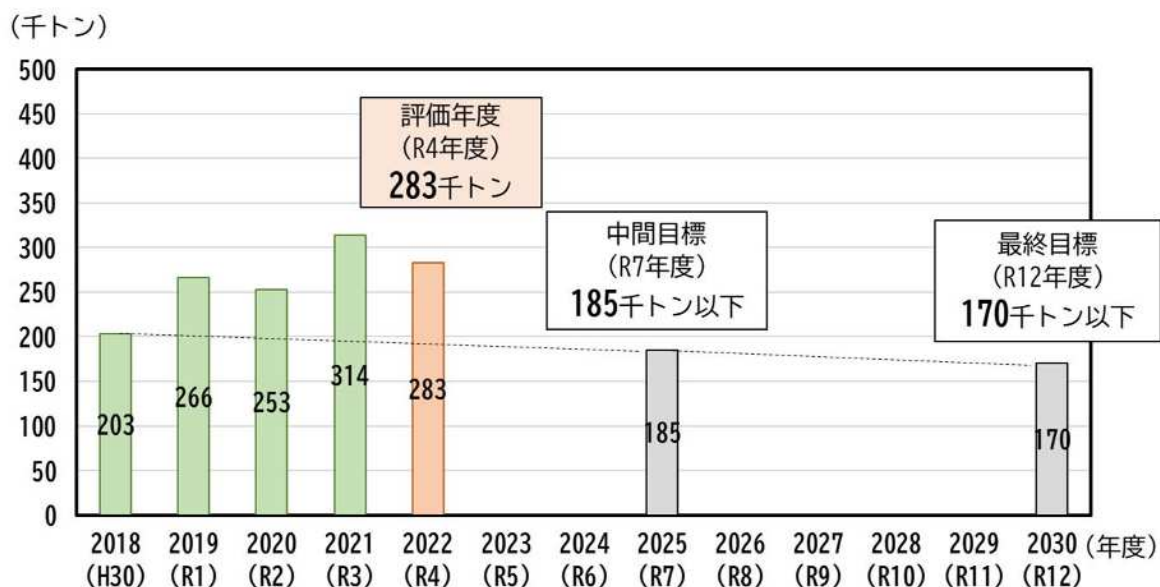
計画目標の項目：一般廃棄物処理に伴い発生するCO₂排出量



- ・収集運搬、焼却、最終処分が発生したCO₂の総量は概ね減少傾向。
- ・焼却工場で発電し、外部へ供給した電力のCO₂換算（供給量×CO₂排出係数）が、供給量の減少や排出係数の低下（電気事業低炭素協議会平均値）により減少したことから、「売電によるマイナス」が減少傾向。
- ・今後は、新日明工場稼働により、「売電によるマイナス」の増加が見込まれる。

7

計画目標の項目：産業廃棄物の最終処分量



- ・産業廃棄物の排出量は、景気等、社会経済状況の影響を受け変動する
- ・令和3、4年度における最終処分量の増加は、一部の業種で生産量が増加したことが原因と推定される
- ・本計画の中間見直しにおいて、再生利用推進の方策を含め、目標のあり方の再検討が必要

8

Ⅱ 各施策の取組状況について

9

(1) 3Rの推進による最適な「地域循環共生圏」の構築



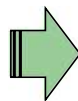
1 プラスチックごみ対策

- ・家庭から排出されるプラスチック資源の一括回収を開始（R5年10月～）
令和6年度のプラスチック再資源化量：6,108トン（うち製品プラスチック253トン）
- ・市内での資源循環を目指し、九州初のプラ新法による再商品化計画の認定（R6年3月）



【ペレット】

市内に拠点を置く企業が製造



【学校用引き出し】

市内に拠点を置く企業が製造



【市内店舗で販売】

2 食品ロスの削減

- ・市内のフードドライブの後援や開催情報を市HPで広報（R6年度末現在：14団体95施設）
- ・食べきりBOX「ドギーバック」を作成し、市内の希望する飲食店舗へ配布
（R6年度末現在：53店舗に2,500個を配布）

10

(2) 循環型社会形成に向けた地域全体の市民環境力の更なる発展



1 市民に対する環境教育の推進

全ての世代へ環境教育に継続して取り組んでいくとともに、「就学前教育及び学校教育における環境教育」として成長過程にあった教育を推進し、一貫した環境教育の充実を図る。

R6年度成果（環境ミュージアム利用者数 84,457人、

エコライフステージ 参加者数 101,268人(オンライン含む)、環境首都検定 3,694人)

2 地域コミュニティやNPOの環境活動の推進

道路、河川等の清掃活動の実践や地域の公園やごみステーションの美化に貢献しているなど、美しいまちづくりに顕著な成果をあげている個人・団体に対し、感謝状を贈呈

R6年度成果（市長感謝状 13人・4団体）

11

(3) 脱炭素社会・自然共生社会への貢献



1 廃食用油リサイクルの推進

市民センターを中心に回収ボックスを増設し、回収体制を強化

(R6年度：回収拠点 81か所、回収量 68k l)

2 廃棄物発電の有効活用

焼却時に発生する熱エネルギーを有効利用して発電し、電力会社等へ供給することにより、発電時に発生する温室効果ガスの削減に貢献する。

R6年度のCO2削減実績（3工場合計）

供給電力量：121,751,529[kwh]

CO2削減量：51,378[tCO2]

12

(4) 「地消・地循環」を目指した環境産業の創出と 環境国際協力・ビジネスの推進



1 環境産業の創出

エコタウン企業が太陽光パネルのリサイクルシステムを構築し、高度リサイクルが可能な新工場が稼働開始

2 国際協力・ビジネスの推進

アジアカーボンニュートラルセンターを中心に、アジア諸都市とのネットワークや環境省、JICA等の資金を活用しながら、市内企業の海外ビジネス展開を行い、R6年度までに100を超える都市で企業と連携し、300件以上のプロジェクトを実施。